

SDGs スタートアップ研究分科会

アドバンスコース第4回情報交換会実施報告

2024 年 1 月 27 日

PMI 日本支部

SDGs スタートアップ研究分科会

アドバンスコース・リーダー代行 小倉 博行

1 月 27 日(土曜)、SDGs スタートアップ研究分科会のアドバンスコース第4回情報交換会を開催しましたのでご報告いたします。

アジェンダは次の通りです。

1. 2023 年度 SDGs スタートアップ研究分科会の概要
2. アドバンスコース参加団体の SDGs テーマ、ゴールなどに関して
 - a. 舞鶴工業高等専門学校（舞鶴地域における小規模河川の防災対策プログラム）
 - b. 株式会社カルティブ（企業版ふるさと納税を利用した地域課題プラットフォーム）
 - c. 有限会社ウイルパワー（循環ビジネスの社会的役割の実施）
 - d. 高野山真言宗[大師教会] 和歌山教区＜三密教会＞（半径 10M 気持ちよく住み続けられる地域作り）
 - e. 株式会社インフォテック・サーブ（iCD 活用で SDGs を達成）
 - f. ブルージョブズ株式会社（SDGs × 広報応援プロジェクト）
 - g. ネクシア合同会社（自然治癒力を引き出す運動を通して健康的なカラダを創造する未来社会の実現）
3. フリーディスカッション

各項目の概要をお伝えします。

1. 2023 年度 SDGs スタートアップ研究分科会の概要

・SDGs スタートアップ研究分科会

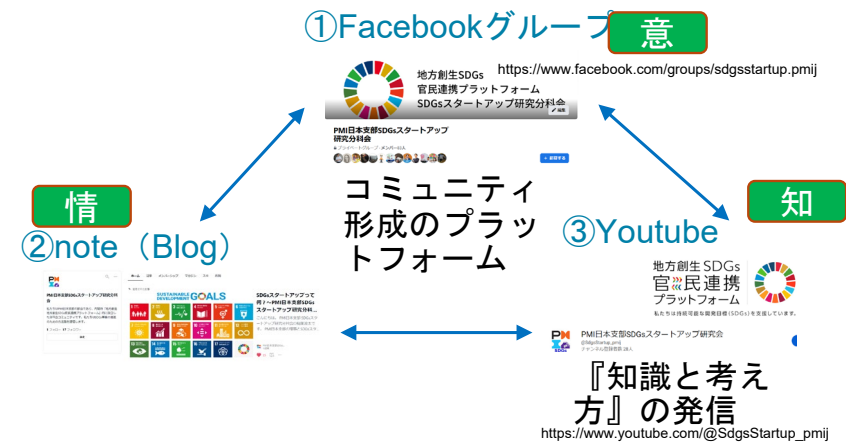
PMI 日本支部は、SDGs 達成プロジェクトを効果的に軌道に乗せ推進する方法の開発・普及を図るために、2019 年 10 月から内閣府「地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム」に「SDGs スタートアップ研究分科会」を設けています。

本年度は、昨年度に引き続き SDGs プロジェクトのマネジメント手法を学ぶ「ベーシックコース」と、実際に事業として行っている SDGs プロジェクトを支援する「アドバンスコース」の二本立てで実施しています。

WEB サイトリニューアル（URL 変わりました。）

[2023 年度秋季 SDGs スタートアップセミナー実施報告 - SDGs スタートアップ研究会 \(pmi-japan.org\)](https://www.pmi-japan.org/sdgs-startup-research-subcommittee/advance-course/)

SNS もやっています。ぜひご登録をお願いします。URL を変えクロードのサイトとしたので、安心して使えます。



3 月セミナーイベント URL は以下です。ぜひ皆さん遊びに来てください。アーカイブ見逃し配信も行います。

[【参加無料】SDGs スタートアップセミナー ～サステナブルな取り組みを実践する上でのヒント～ \(eventos.tokyo\)](#)

アドバンスコースの開催

本年度のアドバンスコースは、原則として 2019 年度、2020 年度、2021 年度、2022 年度のベーシックコースに参加された団体で実際に実行されている SDG プロジェクトを対象としています。すでに SDGs 事業を開始していて、基本的なプロジェクトマネジメントの知識をお持ちの場合は、途中参加もご相談に応じます。

図 1 にアドバンスコースの位置づけ、スケジュールを示します。

PMI日本支部 SDGsスタートアップ研究分科会概要

		2023年												2024年			
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月以降			
全体																	
活動①： SDGsスタートアップ研究 (ベーシックコース)																	
活動②： SDGsスタートアップ研究 (アドバンスコース)																	
活動③： SDGsスタートアップセミナー																	
その他																	

図 1 アドバンスコースのスケジュール、活動内容

2. アドバンスコース参加団体の SDGs テーマ、ゴールなどに関して

現在アドバンスコースに参加されている 7 団体の SDGs 取組み事例を紹介していただきました。

a. 舞鶴工業高等専門学校（舞鶴地域における小規模河川の防災対策プログラム）

（報告：舞鶴工業高等専門学校 内海康雄氏）

○テーマ：『北近畿における地域課題の 解決による地方創生』（4 回目）

従来からの「小規模河川の水位監視システム」に加えて、北近畿の「地域プラットフォーム」づくりに取り組んでいる。

・舞鶴市の総合モニタリング情報配信システムとして社会実装し、2023 年 8 月の台風 15 号の時にリアルタイム情報として活用された。その結果を反映してベネフィットリストを見直し改訂した。

・まいづる未来の海プロジェクトは本年 9 月で終了するので、次の展開について検討中。

・舞鶴高専スタートアップ人材育成（アントレプレナー人材）プロジェクトとして、高専 2 年生に対し課題解決型授業（舞鶴高専 PBL）を行い、スタートアップについての学生のアンケート調査を行った。

3 年生には講演を行い、文科省からの支援もあり、スタートアップの気運が高まっている。

・SDGs とスタートアップに結びつけた地域振興の仕組み

北近畿の地域プラットフォームによる課題発見と解決

PMI 日本支部によるスタートアップの方法論の提案

参考：舞鶴市の総合モニタリング情報配信システムのベネフィットリストの改訂

作成団体名：舞鶴工業高等専門学校		(注)・漢文字：確認/修正 ・英数字：修正/検討中		作成日：2020年3月6日 改訂日：2023年12月26日 評価日：2024年1月19日													
事業名：小規模河川の洪水予測		SL1															
ミッション		舞鶴市の安全な暮らしを守る															
ビジョン		小規模河川洪水による災害を最小化し、それを持続する人材を育てる															
【E.ベネフィットリスト】 各アウトカムに係わる受益者に提供する価値を定義し、その評価指標を決定する																	
ロジックモデルから転記		ロジックモデルをベースに考える		指標一覧等をベースに考える													
活動内容		時期	アウトカム	受益者	対応するベネフィット	指標	目標値	測定方法	設問（実施法？）								
【A.洪水予測システムの構築・運用】																	
A1.舞鶴市内の小規模河川の洪水予測に必要な機器（雨量計、水位計、通信システム、データ監視システムなど）を設置されている。	短期	自治体	・舞鶴市内の小規模河川の洪水予測に必要な機器（雨量計、水位計、通信システム、データ監視システムなど）が設置されている。 ・小規模河川災害への関心がワークホルダーへ喚起されている。	自治体 企業	・住民の河川防災への関心が高まり、予備化しやすくなった（舞鶴市 R2 年度 2,200 万の予算） ・機器・システムの実証実験ができた。 ・地域に対するシステムの動作確認ができた。	011まちづくり 設置箇所数：43箇所（既存の測定点を含む） 設置箇所認知度：XX%	011まちづくり 設置箇所数 設置箇所認知度	現状を調査して、数値であれば、達成感の目標を設定する。 （以下同様）	1)自治体等の関係機関の統計調査 2)当事者のアンケート調査 3)自治体の対象となる方々への個別訪問やアンケート調査（以下同様）								
A2.計画データを解析し、予測に役立てる。	中期	自治体	・計画データへのアクセスが容易になり、予測モデルが構築されている。 ・災害時のシステムの動作確認と改良（設置場所、必要性能など）の検証・改良が出来る。 ・計画データのオフラインでリアルタイムに得られる。 ・改善のための要望と情報を提供するための手法とノウハウが得られる。 ・地域ごとの地形などに応じたカスタマイズのデータが得られる。	自治体 市民 企業	・洪水予測地区へ性格な情報発信できる。 ・災害時のシステムの動作確認と改良（設置場所、必要性能など）の検証・改良が出来る。 ・計画データのオフラインでリアルタイムに得られる。 ・改善のための要望と情報を提供するための手法とノウハウが得られる。 ・地域ごとの地形などに応じたカスタマイズのデータが得られる。	011まちづくり 予測件数10件（被害予想エリアに大きな雨がなかった） （舞鶴市組合モニタリング情報提供システムでの情報提供） ・情報発信箇所の割合（洪水に対する情報発信箇所の割合）	011まちづくり 予測件数 ・情報発信箇所の割合 ・避難実行件数 ・避難実行件数 ・避難実行件数 ・避難件数	1)洪水地区に対する情報発信箇所の割合を92％にする（公表する） ・舞鶴市による情報ポータルサイトの開設	2)舞鶴市のH4の調査 個々の聞き取り調査								
		A.リーディングパスv6		B.SDGsゴールマッピングv6		C1.ESG分析		C2.ターゲット設定v6		D.ロジックモデルv7		E.ベネフィットリストv7		PMIコメント・対応v6		Sheet2	

b. 株式会社カルティブ（企業版ふるさと納税を活用した地域課題解決プラットフォーム[river]）

（報告：株式会社カルティブ 企業版ふるさと納税コンサルタント 小坪拓也氏）

○[river（リバー）]という地域課題解決プラットフォームで、「企業版ふるさと納税の活用を目指す自治体と企業が、制度を活用するためのサービス」を提供しています。

・単月 1 億円の寄付流通を年度内（1～3 月）に達成する事業目標に対し、営業実績は目標に

- ・ 1 年間の振り返り。例年に比べ新しい試みが少ない年だった。
- ・ ロジックモデル(中間アウトカムとミッション、ビジョン)の見直しを行った。
- ・ 2024 年 6 月：サーキュラーベースの事業開始予定。政府の脱炭素政策で、CO2 排出量を表記する流れがある。行政との関係が大事。

廃棄物やリサイクルは関連法案があるが、リユースは法制度にないので廃棄物やリサイクルに対して優先され難い状況。

参考：

1年間の振り返り
.....
✓1月 倉敷市 一般廃棄物収集運搬の許認可開始
✓5月 総社南高校生徒とのリユースイベント
✓5月 PMI日本フォーラム2023
✓8月 稲葉師匠 SDGsインタビュー：倉敷市役所
✓事業再構築補助金 採択後の手続き
✓ブックオフとの貿易連携事業
◆2023年は例年に比べ新しい試みが少ない年だった！

2024年
.....
サーキュラーベース事業開始 6月予定
◎香川県・岡山県廃棄業者やリユース業者などとの連携 不動産、建設関係など地域事業者とPR
◎地方行政との関わり方 岡山県、倉敷市、香川県、高松市、丸亀市、善通寺市など にサーキュラーベース活用の提案

d. 高野山真言宗[大師教会] 和歌山教区＜三密教会＞

(代表：高野山真言宗「大師教会」 和歌山教区＜三密教会＞ 浅田慈照氏、報告：PMIJ 小倉代読)

○2023 年度三密教会プロジェクトテーマ【半径 10M 気持よく住み続けられる地域作り】：

三密教会会員それぞれの＜場＞と＜人＞でプロジェクトを展開

場 (空間の活用) → 駆け込み寺

人 (知識活用) → 寺子屋

※リーンキャンパスを書くとき先が見えてくる、リスクの管理もできてくる

・北海道函館近くで単身赴任をしている浅田氏のご主人の体調が悪く、本日(1/27)北海道函館（七飯町）へ移住（引っ越し）することになり、「PMIJ アドバンスコース三密教会 SDGs PJ 活動は終了」とする。これまでの活動拠点「和歌山県橋本市：大楽庵」は地元の民生委員を務める不動産屋に売却する。

・2024 年度は、三密教会 SDGs PJ 成果をもとに三密教会会員それぞれの拠点で駆け込み寺事業と寺子屋事業としての定常業務に移行する。

参考：

2024年度事業に向けて それぞれの拠点で活動

【SDGsテーマ】

ジェンダー平等の実現しよう SDGs5

すべての人に健康と福祉を SDGs3

質の高い教育をみんなに SDGs4



住み続けられるまちづくりを SDGs11

貧困をなくそう SDGs1



【活動内容】

場所と機会と情報の提供

相談相手として → 寺院の空間提供・知識の共有

情報提供をする → 家財整理など情報提供

人材育成をする → 講習会等の開催

【対象者】

LGBTQ+, 経済弱者(女性、高齢者、障がい者)

知識・教養を身につけたい人

半径10Mの人が
安楽に過ごせる
ゆったり学べる



e. 株式会社インフォテック・サーブ (代表：橋爪修氏)

(報告：株式会社インフォテック・サーブ 志村氏)

○iCD 活用で SDGs を達成：テーマは人材育成

注：iCD とは：IT を利活用するビジネスに求められる業務（タスク）と、それを支える IT 人材の能力や素養（スキル）を体系化したもの

- ・ わくわくした組織チェックリスト V1.0 作成⇒人的資本経営の実現_iCD 緑本の活用
⇒チェックリスト見直し
- ・ IBM 版デザイン思考を活用
- ・ 給料よりも、わくわくした組織の心理的安全性の方が重要

参考：

今年度最終回

1. 宿題だったチェックリストの進捗

1. 開発方向性の定義

これまでの検討内容をもとにガイドとなる資料を加えた。

事由：iCDA発行シリーズ3冊目である“緑本”では

「働きがいや醸成するためにあるべき土壌」にフォーカスしていて、ワクワクテーマと重なるため

2. チェックリスト作成アプローチ

チェックされる方の負荷を下げるため、項目数は30項目程度とする

ワクワクする組織を表している項目に（ぎゅーつと）絞った

これまでの検討内容を生かしつつ、資料を活用した



f. ブルージュオブズ株式会社 （代表：橋本滋氏）

（報告：ブルージュオブズ株式会社 代表：橋本滋氏）

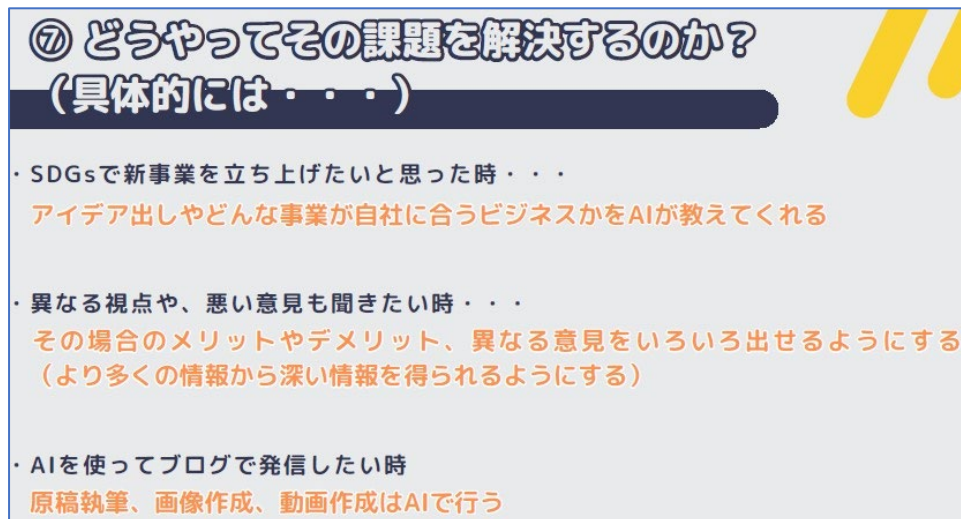
○テーマは：SDGs × 広報応援プロジェクト

事業内容：WEB 製作、メディア製作、SDG s 事業の 3 本柱としています。

SDG s に取り組む中小企業の広報応援隊を目指しています。

- ・ 包装材にエコな製品をつくる会社
- ・ SDGs AI 事業：中小企業と地域課題のマッチングを図る AI。AI は 3 年後、当たり前のように使われる
- ・ 3 年後を現時点として、リーンキャンバスを描いた
- ・ ブルージュオブズの目的は、あくまでもアイデア出し

参考：



g. ネクシア合同会社 （代表：武藤淳子氏）

（報告：ネクシア合同会社 代表：武藤淳子氏）

テーマは；自然治癒力を引き出す運動を通して健康な体を創造する未来社会の実現

○ネクシア合同会社の企業理念・ミッション

ネクシア合同会社は「自然治癒力を引き出す運動を通して健康的なカラダを創造する」
ことで社会に貢献します。

- ・ 運動に対する価値・意識のシフトチェンジを普及させる活動
 - ・ リーンキャンバス作成に苦戦（顧客セグメント、ターゲットなど）
 - ・ がんサバイバーのサポート：山添真喜子さんからアドバイスをもらいたい
- ※初対面のコンサルとお話しする方法は、直接質問すること、自分の課題や相手の課題に対する情報提供を行うこと。

参考：

ネクシア合同会社のビジョン

自分のカラダを最優先に大切にしている行動として
健康にとって必要な運動の価値を普及します

- 🌱 健康のための運動を習慣化するための普及活動
「自分で自分のカラダをつくり、健康を守る人」を増やすことが、自立した健康長寿社会に貢献します
- 🌱 健康で自立したコミュニティづくり
同じ価値観を持った仲間と一緒に運動することで、次世代に、身体的、精神的、社会的な負担をかけずにすべての人が自分らしく共生する社会に貢献します
- 🌱 未病や予防の運動指導ができる指導者の養成
健康のための運動は、筋肉を増やすことだけではなく、自分のカラダとのコミュニケーションが大切です。運動以外の専門的な知識やスキルを持った指導者を育成し社会に貢献します

4. フリーディスカッション

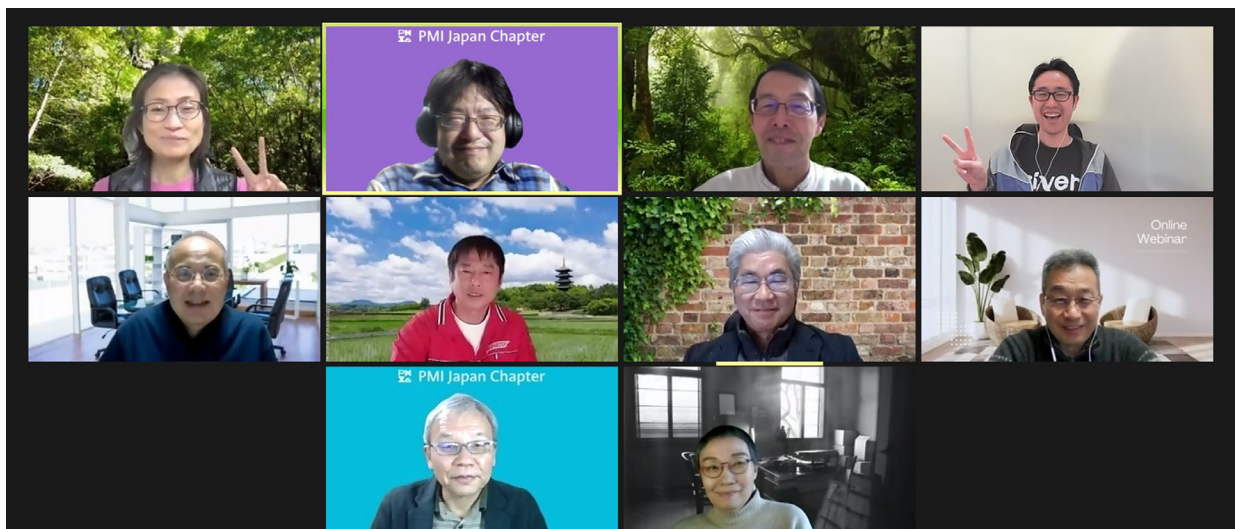
- ・リーンコーヒーカフェを用いてアジェンダのないディスカッションを行いました。

Agile Coffee ★ Prime Directive New board

SDGs研究分科会アドバンスコース2024_1月度 Sort by Votes Filter your cards settings New column

Set the context of the retrospective here...

Discussion Items	Current Being Discussed	Done Discussing
資源の限られた地域でSDGsをどのように実現していくか 👍 2	CHAT GPTで何をしてみましたか？ 👍 2	「SDGs」という4文字の意味期限いつまで？ 👍 5
SDGsビジネスが胡散臭く見えるけど、どう思いますか？ 👍 2		SDGsを達成しようとしている人はどのくらいいるの？ 👍 5
中間報告会で、質問するコツ、質問を受けるコツ。議論をさらに価値化するためにできること。 👍 1		SDGsで平和貢献できる？ 👍 4
		能登の震災の支援をSDGsの活動と繋げる 👍 3



以上

本件についてご関心、ご要望がありましたら下記にお問合せください。
PMI 日本支部 SDGs 担当(sdgs@pmi-japan.net)